

旧員弁郡定住自立圏共生ビジョン懇談会 会議録

会議名	第5回 旧員弁郡定住自立圏共生ビジョン懇談会
開催日時	令和元年11月13日(水) 13:30~15:00
開催場所	いなべ市役所 シビックコア棟2階研修室2、3
出席者	<p>【委員】15名 岩崎恭典、楠田泰司、松岡洋、安藤修平、荒木佳子、滝本収、神谷清、近藤徳次、佐藤忠生、岡本恒一、佐藤秀子、土岐昌男、池田秀夫、水谷善則、伊藤宗明 (欠席：桑原浩、相田直隆、伊藤良子)</p> <p>【両市町首長】2名 日沖靖(いなべ市長)、水谷俊郎(東員町長)</p> <p>【事務局等】11名 いなべ市：健康こども部長、総務部長、福祉部長、学校教育課長、都市整備部長、建設部長、農林商工部長、企画部長、政策課3名</p> <p>【オブザーバー】14名 東員町：健康づくり課職員、子ども家庭課長、環境防災課長、総務課長、地域福祉課長、長寿福祉課長、学校教育副課長、社会教育課職員、建設課長、産業課長、町民課長、政策課長、政策課2名</p>
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 座長あいさつ 3. 第3次旧員弁郡定住自立圏共生ビジョン授与式 4. 説明及び審議事項 <ul style="list-style-type: none"> (1) 第3次共生ビジョンについて パブリックコメント結果報告 第3次旧員弁郡定住自立圏共生ビジョンについて (2) 平成30年度取組についての実績報告 (3) 質疑応答 5. 事務連絡 6. 閉会
配布資料	<p>【資料1】第3次旧員弁郡定住自立圏共生ビジョン(案)に対する意見及び回答</p> <p>【資料2】第3次旧員弁郡定住自立圏共生ビジョンパブリックコメントによる修正について</p> <p>【資料3】旧員弁郡定住自立圏共生ビジョン平成30年度事業取組経過報告書</p>
公開、非公開の別	公開
非公開の理由	—
傍聴人の数	0人
議 事 概 要	
<p>1. 開会 【事務局】 定刻となりましたので、ただいまより令和元年度第5回旧員弁郡定住自立圏共生ビジョン懇談会を開催いたします。</p> <p>2. 座長あいさつ 【座長】 本日の懇談会の流れについて説明。</p>	

3. 第3次旧員弁郡定住自立圏共生ビジョン授与式

座長からいなべ市長と東員町長に「第3次旧員弁郡定住自立圏共生ビジョン」を授与する。

4. 説明及び審議事項

4- (1). 第3次共生ビジョンについて

パブリックコメント結果報告

第3次旧員弁郡定住自立圏共生ビジョンについて

【事務局】

資料1「第3次旧員弁郡定住自立圏共生ビジョン（案）に対する意見及び回答」により説明。

4件件数がありました。1、2は医療と福祉に関することなので、まずそのことについて担当者に説明してもらいます。

【いなべ市健康こども部長】

1-1、1-2、1-3、2-1について資料1「第3次旧員弁郡定住自立圏共生ビジョン（案）に対する意見及び回答」により説明。

具体的な対応について、資料2「第3次旧員弁郡定住自立圏共生ビジョンパブリックコメントによる修正について」により説明。修正箇所は赤字になっています。

いなべ総合病院だけではなく、この圏域の医療機関まで広げたビジョンを計画するべきということで、修正しました。

【いなべ市福祉部長】

1-4、1-5について資料1「第3次旧員弁郡定住自立圏共生ビジョン（案）に対する意見及び回答」により説明。このご意見で第3次旧員弁郡定住自立圏共生ビジョンの修正はありません。

【事務局】

3-1～5、4について資料1「第3次旧員弁郡定住自立圏共生ビジョン（案）に対する意見及び回答」により説明。

3-1について、両市町として、ホームページへの掲載等を行い、周知させていただいています。

【委員】

知的財産ということ进行全面に出していき、この共生ビジョンが後世に残るものになっていかなければならない。

【座長】

3-1に関わるようなことですね。この共生ビジョンは具体性には欠けるところはあるかもしれないが、人口を維持していこうとするのであれば、重要な計画ですし、行政がするだけではなく、市民も考えていかなければならないことなので、それを知的財産みたいな感じで承継するようなことを考えられないかということですよ。その点で広報、PRについてどう考えていますか。

【事務局】

今回の一連の授与式も含め、両市町のホームページ等にも載せさせていただいています。地方創生の中でも行政間連携は積極的に推進するようになっていきます。そのようなことで引き続き積極的に広報していきたいと思っています。

【委員】

3-1について、ホームページへ掲載して周知しているとありますが、インターネットが使えない方もいる。そういう方へはどう対応するのか。

パブリックコメントについて、4件あったということですが、もっと住民への関心度が上がるようにしていかなければならないのではないかと。その関心度を上げるためにこの委員会でも考

えていかなければならない。

これから 5 年先を見据えて、計画しましたが、毎年その計画の検証をこの委員会でしっかり行っていかなければならない。

【事務局】

いろんな世代の方に見てもらわないといけませんので、ホームページだけでなく、いろんな媒体を使って周知していきます。

【座長】

今までは委員の方への報告会という形になりがちであったけど、今年度の第 3 次の策定の時のように各専門分野に分かれ、分科会を開いて委員会として話し合いの場を設けることで、より内容のある計画検証が行えます。

4- (2). 平成 30 年度取組についての実績報告

【事務局】

資料 3「旧員弁郡定住自立圏共生ビジョン 平成 30 年度事業取組経過報告書」により説明。連携する施策に対する成果指標 (KPI) の C・D 判定及び A 判定の内 200%を超える施策について、担当者より施策を構成する事業内容をふまえ説明していただきます。

【いなべ市健康こども部長】

中核病院であるいなべ総合病院の機能確保について、医師数が目標値 44 に対して実績値が 36 ということで、達成率が 81.8%でC判定でした。医師確保については、緊急事態ということで新たな対策をさせていただいています。名古屋市立大学といなべ総合病院といなべ市が連携し、寄附講座を開設しました。名古屋市立大学には教授会等での調整をし、地域医療の研究とともに医師確保対策を行っていただいています。いなべ市としてはその資金調達する準備を進めてきました。その結果、3名の医師をいなべ総合病院に派遣していただくことになりました。

その財源確保としましては、ふるさと納税の制度を利用したクラウドファンディングで資金を集めています。

【いなべ市総務部長】

防災対策の計画的な推進で、防災ヘリの活用件数を指標に置いています。平成 30 年度目標値 5 件に対し、実績が 4 件でした。達成率 80%でC判定でした。

出動件数は、4 件ですが、医療搬送のための着陸 1 回が行われ、利用については 5 件で、目標値分の活用は行っています。

【いなべ市福祉部長】

地域包括ケアシステムの構築の推進について目標値が 312 件に対し 199 件でD判定でした。最近の実情は、包括ケアシステムについて知っていただけるようになり、民生委員さんを介さず直接ご相談いただくようになってきています。このような結果ではありますが相談件数が減ったわけではありません。

【東員町産業課長】

喜び農業の推進について目標値 2,000 m²に対し実績値 1,000 m²でD判定となっています。この事業は持続可能な農業を行うためブドウやブルーベリーの栽培を行ってきました。平成 29 年度から 2,000 m²に増やすと計画していましたが、平成 29 年 1 月の大雪のため、ビニールハウスが倒壊してしまいました。また担い手の確保が困難のため、平成 29 年度広げることができませんでした。平成 30 年度は担い手農家さんが見つかりまして、事業を引き継いでいたのですが、現状の 1,000 m²で手一杯で面積拡大まで至りませんでした。

ただ新たな担い手が見つかりましたので、数字には表れていない成果があったと思われます。

【いなべ市企画部長】

交流・移住の促進についてホームページ閲覧件数目標値 2,580,000 件に対し 5,283,296

件で判定Aですが、達成率 200%を超えたため説明させていただいています。

近年、行政の情報をホームページ等でキャッチしようとする方が増えてきていることを背景に、ホームページをリニューアルし、スマートフォン対応やデザインの工夫をしています。

【いなべ市総務部長】

行政職員の資質の向上で職員研修会参加者数を指標に置き目標値 38 件に対し実績値 78 件で、A判定ですが、達成率 200%を超えたため説明させていただきます。

職員にとって興味のあるもの、業務に活かせる研修を開催させていただくことにより、このような数値になったかと思えます。ただ過去の実績値をみますと今後の目標値については検討していく必要があると思えます。

【いなべ市学校教育課長】

教職員の資質・指導力の向上について、指標を教職員研修会参加者数で目標値 1,500 人に対し実績値 1,146 人でC判定でした。いなべ市の研修講座に両市町の教員、保育士さんの延べ人数です。この判定の原因は 2 つあります。1 つは、研修講座は主に夏季休業中に開催しています。しかし夏季休業中に講座が設定しにくくなってきています。学校行事等があり、これまで通り開催できなくなってきています。また近年は教員の年休取得対策として夏季休業中の 1 週間学校閉場を行ったことも理由の一つです。2 つ目は、教育の課題が多様化しており、役職や学校ごとに応じて課題が変わってきます。そのため、指標の研修会ではなく、役職に応じた管理職研修会や学校に応じた研修として出前研修等に力を入れてきており、指標の検討も必要になってきています。

【座長】

指標の設定について、指標を変えない方が良いのではという話がありましたが、実情に合わせて変えていった方が良いと思う。例えばドクターヘリについては使わない方がよいと思われるのですが、利用件数で設定してある。そういうところはどうか。

【事務局】

ヘリポートだけではないのですが、この計画は使える状態であれば使ってもらった方がよいという風に判断しています。設置している以上使えませんでしたということになるのが一番いけないので、使える状態になっているという状態が維持できているということが大事だと思います。

【座長】

だからと言って、使える状態になっているかが重要であれば利用回数を示すではなく、使えなかった件数をゼロにする指標にした方が良く思う。

【委員】

目標値の指標の根拠が分かりにくい。

【委員】

地域ケアシステムについて民生委員の相談件数がD評価でした。この指標の置き方について考えていく必要がある。

【いなべ市福祉部長】

平成 27 年度の実績値は 415 件となっていますが、包括支援センターの存在が知られるようになり、直接相談に来られる方が増えたということだけですので、民生委員さんが何もしなくなったとは思っていませんし、指標をあまり変えない方が良く思い、この指標であげさせていただきました。

【事務局】

今回第 3 次の策定についてもこのようなご意見反映させていただき、指標を設定してありま

す。例として地域包括ケアシステムについては福祉委員会及び福祉座談会設置箇所数に変更しました。設置箇所が増えれば、議論が深まり、その結果として施策目的達成に繋がります。

5. 事務連絡

【いなべ市企画部長】

第3次旧員弁郡定住自立圏共生ビジョンの策定作業のお礼、懇談会委員の選任について

6. 閉会

【事務局】

閉会の挨拶